

令和6年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要（男鹿市）

1 市の概要（人口 23,779 人）※令和6年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数（令和6年4月1日現在）						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1 園	0 園	0 園	7 か所	1 園	0 園	6 校

その他：へき地保育所 児童館 小規模保育 事業所内1 認可外

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
（１）教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。 （２）市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

3 事業計画の概要（3年間の主な計画）

目 的（3年間）
これまで取組んできた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」から見えてきた成果と課題を踏まえ、今後も県と連携しながら、就学前教育の質や専門性の更なる向上を図るための教育・保育アドバイザーによる巡回指導や地域で学び合う研修会等の継続に努め就学前教育の充実を推進する。
主な内容（3年間）
（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実 ・市に教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設の課題解決に向けた継続的な支援と、県の教育・保育アドバイザーと連携しながら、課題解決に向けた方策を探る。 ・幼保小の接続に向けた連携を強化していくために、担当課と教育委員会との連携を確保する。 （２）教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援 ・保育の質や専門性の向上のために、巡回指導を計画的に実施し、保育内容や園内研修の支援、ミドルリーダーや若手等の育成、保育者の面談等によるきめ細やかな支援をする。 （３）専門性の向上のための研修の充実 ・保育の質や専門性の向上を図るため、市内就学前施設全体に共通する課題解決に向けて、県指導主事や幼保指導員、県教育・保育アドバイザーと連携し継続的に導いていく。

・公開保育により、各園の良さや課題を明確化し、施設間の交流体制を作る。また、市内就学前施設、小学校、及び近隣市町村と地域で学び合う体制を構築する。 (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実 ・幼保小の相互理解を図るため、市教育委員会指導主事との連携のもと、市内就学前施設や市内小学校の保育者や教職員を対象にした合同研修を開催し、接続期の重要性の共有を推進する。 (5) 県との連携体制の充実 ・県の就学前教育推進協議会、県主催の研修、教育・保育アドバイザー連絡協議会、県指導主事要請訪問やこども園訪問、市に学ぶ研修等に参加し、教育・保育アドバイザーの質の向上を図る。	
年度別重点	
令和4年度	・各就学前施設の訪問を通して、各園の課題解決に応じた保育者支援と園内研修支援を図りながらスキルアップにつなげる。 ・県主催研修会や教育・保育アドバイザー連絡協議会等に参加し、教育・保育アドバイザーの資質向上に努める。
令和5年度	・キャリア別研修や園訪問を通して保育の改善と質の向上を図る。 ・小学校との円滑な接続が充実するよう、市教育委員会との連携を図る。
令和6年度	・各就学前施設の課題に応じた支援と、幼保小の円滑な接続に向けた合同研修の充実に努める。 ・小学校との円滑な接続が充実するように市教育委員会との連携を深める。

4 令和6年度の具体

目 的
・教育・保育アドバイザーが市内就学前施設の巡回訪問を計画的に行い、保育内容や保育者の支援、園内研修や園内研修担当者への助言等を通して質の高い保育の向上を図る。就学前施設における課題等に応じた研修を開催し専門性の向上を図る。 ・担当課と市教育委員会との部局間連携を積極的に行い、幼保小の円滑な接続の強化に努める。保育参観や授業参観後の協議等を通して、幼保小の職員が相互理解し、共に学び合う体制づくりを構築する。
実施内容及び実施状況(中間)

(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

- ・市民福祉部子育て健康課に教育・保育アドバイザーを配置
- ・市教育委員会との連携の実施
- ・市教育委員会指導主事との連携の実施

4月 1日：架け橋プログラムについて（担当課・市指導主事）

幼保小の連携の方向性について

4月 4日：架け橋プログラムについて（担当課・市指導主事）

4月 8日：「就学前・小学校合同研修会」について（担当課・市指導主事）

4月25日：連携通信の内容等確認（担当課・市指導主事）

5月16日：連携通信の内容確認（担当課・市指導主事）

5月16日：「就学前・小学校合同研修会」の内容検討（担当課・市指導主事）

5月23日：小学校訪問等における状況報告（担当課・教育委員会）

架け橋プログラムについて（教育委員会・担当課）

6月28日：「就学前・小学校合同研修会」の内容確認（担当課・市指導主事）

7月 8日：「就学前・小学校合同研修会」の開催協力（担当課・市指導主事）

7月11日：小学校訪問等における状況報告（担当課・市指導主事）

9月19日：架け橋プログラム市町村訪問（担当課・市指導主事）

訪問指導助言者：秋田県教育庁幼保推進課

主任指導主事 石山 潤 氏

秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 今野菜穂子 氏

参加者：子育て健康課 教育委員会学校教育課

1月23日：市学校行事調整委員会（令和7年度幼保小合同研修会について）

3月 末 ：担当課と市教育委員会打合せ

（次年度に向けて・合同研修会・架け橋プログラム作成について）

○市指導主事と男鹿市幼保小連携通信「ぶらんこ」の内容について話し合いや、幼保小の連絡協議会、授業参観等の報告がきっかけとなり、各学区内の幼保小の成果や課題等を把握できるようになった。

○「架け橋プログラム」に関わる話し合いを通して、「円滑な接続」「学びの連続性」について担当課と教育委員会が互いに理解し合うようになった。

△教育・保育推進体制がさらに充実するよう、担当課と市教育委員会の連携を確かなものにして

いく必要がある。そのため計画的に話し合いの場を設定するように努めていきたい。

(2)「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

◇令和6年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（男鹿市）

派遣実績 計15施設／教育保育施設全9施設 小学校6施設 192回		
回数	・幼稚園：私立1園（24回） ・保育園：市立6園（88回） ・保育所型認定こども園：市立 1園（16回） ・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回） ・小学校：6校（62回）	
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、9園（78回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、1園（3回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（110回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（54回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（95回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、8園（6回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（69回） ・特別支援訪問（実績のうち、8園（12回） ・その他（上記に分類できないもの）（実績のうち、8園（21回）	
理由	・事業所内保育を含め、各園を継続的に訪問することにより、保育参観や振り返り、園内研修参観や研修担当者 の振り返りを通して、保育の質や保育者の専門性の向上を図るため。 ・市内の小学校を訪問し、円滑な接続に向けて就学前施設と小学校が互いに理解を深め幼保小の連携と推進を図 るため。	

○保育の振り返りや園内研修の協議では、自分の考えを整理しながら筋道を立てて話すことが
で

きるようになり、保育に対し深く考える力がついてきている。このことが保育の質の向上につ
ながっている。

●主体性を育む保育についての考え方や捉え方に個人差がある。

今後の園訪問で子どもにとってどうなのか、何を育てたいのか等について話し合い、一緒に考える場をつくっていく必要がある。

●保育の振り返りでは、子どもの状況だけ話し終わってしまうことが多いため、進め方について伝えていく必要がある。

△小学校訪問時は、幼保小のつなぎの部分の大切さが更に意識できるよう、授業参観や協議をする機会を積極的に持つことが必要である。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

①保育実践力向上研修「不適切保育研修」

日 時：令和6年5月22日（水）

9：30～12：00

場 所：男鹿市脇本公民館

テーマ：「子どもも保育者も笑顔に
～よりよい保育実践に向けて～」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課

主任指導主事 石山潤 氏

内 容：講義・演習

参加者：31名

<参加者の学びや感想>

- ・自分自身の日々の保育を振り返り反省する点やこれからも続けていってもよい行為など多くのことを学ぶことができた。また、子どもを一人の人として尊重することの大切さについて詳しく知ることができ、明日からの保育にいかしていけると感じた。
- ・「マルは大きく、バツは小さく」という言葉が印象的だった。一緒に過ごしていると悪い面が続いて見えるが、子どもの良い部分に目を向けてその部分を伸ばしていけるようにして、環境の構成も見直していきたい。
- ・子どもにとって環境がいかに大切なのか。素敵な環境の中で自由に主体的に遊ぶことの喜びを実感できる子どもが安定し、保育者も安定していく。そのことで適切な関わりができ「子どもも保育者も笑顔に」になっていくと思った。「手のかかる子ども」と思わずに物的環境や人的環境に手をかけていきたい。



○研修後の園訪問では「研修内容を報告し職員みんなで話し合い学ぶ時間を持った」「再度園

内で話し合い『不適切保育』について確認した」「その後は各自の保育の振り返りで『自分の保育は不適切でなかったか？』という話が自由に出てくるようになり保育の質につながっている」等という話しから、自園にいかすことのできる研修であり、保育の質の向上につながっていると思う。

②保育実践力向上研修「不適切保育研修」

日 時：令和6年6月27日（木）

13：30～16：00

場 所：男鹿市脇本公民館

テーマ：「子どもも保育者も笑顔に

～よりよい保育実践に向けて～」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課

主任指導主事 石山潤 氏

内 容：講義・演習

参加者：23名



<参加者の学びや感想>

- ・本日の講義内容から「子どもの立場になって考える」ことの大切さを学んだ。自分自身の経験や思い込みを過信することなく「子ども中心」「子どもが主体」となる保育に努めていきたい。
- ・適切なこと、不適切なことを考える時に、関わる相手のことを思えるかどうか。発達や年齢、状況や思いに沿わないことであれば「適切」から離れていくと思う。子どもだけでなく職員の気持ちも含めて思いを汲み取ったり、受け入れたりしながら、心に余裕を持って過ごしていきたい。

○その後の園訪問で「職種に関係なくすべての職員を対象にしたことで、子どもの気持ちや思いを大切にしたい関わりをすることが基本であるということがすべての職員に浸透してきた」「臨時職員の子どもを見る目や関わり方に変化が見られるようになった」という話しを聞き、今回の研修の成果を感じた。また、今後もこの気持ちを保ちながら日々の実践の継続に期待したい。

△より多くの職員が参加できるように同じ内容で2回開催した。園からは「大事な研修をより多くの職員から学んでもらうことができたため良かった」という感想が聞かれた。今後も内容によってはすべての職種を対象とした研修が必要である。

③キャリア別研修「フレッシュ職員研修」（7回）

対象者：採用1年目から5年目までの保育士及び幼稚園教諭

テーマ：「～乳幼児教育に関わるために～」

講 師：男鹿市役所子育て健康課 子育て支援班 教育・保育アドバイザー 泉文子
内 容：講話・演習
場 所：各園内
日 程：各園の要望に応じて決定
実施園：8園

ア

日 時：令和6年6月4日（火）

13：30～15：00

場 所：学校法人秋田キリスト教学園 いづみ幼稚園

学校法人秋田キリスト教学園 事業所内保育

参加者：5名



イ

日 時：令和6年6月10日（月）

13：30～15：00

場 所：男鹿市立認定こども園男鹿市立船川保育園

参加者：8名



ウ

日 時：令和6年6月12日（水）

13：30～15：00

場 所：男鹿市立脇本保育園

参加者：12名



エ

日 時：令和6年6月14日（金）

13：30～15：00

場 所：男鹿市立船越保育園

参加者：14名



オ



日 時：令和6年6月17日（月）

13：30～15：00

場 所：男鹿市立五里合保育園

参加者：7名

カ

日 時：令和6年6月24日（月）

13：30～15：00

場 所：男鹿市立玉ノ池保育園

参加者：7名



キ

日 時：令和6年6月28日（金）

13：30～15：00

場 所：男鹿市立若美南保育園

参加者：4名



ク

日 時：令和6年10月11日（金）

13：30～14：30

場 所：男鹿市立船越保育園

参加者：13名



<参加者の学びや感想（8園）>

- ・次年度から認定こども園がスタートする。誰にも聞けず分からないまま過ごしてきたが、「認定」についてよく分かった。また、今まで考えることもなく過ごしてきたことがたくさんあり、特に社会人として、保育者としての基本となることを学ぶことができてよかった。今のうちに聞くことができて良かった。
- ・忘れかけていた「自分がなりたい保育士像」を改めて思い出し確認することができ、初心を忘れず日々の保育を大切にしていきたい。また、普段使っている丁寧、温かく、子どもの立場に立って、寄り添う等ということの具体的なことに気づくことができた。それは子どもだけでなく、職員に対しても同じであるということを感じた。明日から保育者らしく過ごしたい。

○各園の管理職等から「保育士として、社会人として、行動、しぐさ、態度、言葉使い、人への気遣い、書類提出日の厳守」等の様々なことを教えてほしいという要望があった。参加者からは「分からなかったこと、知らなかったこと、恥ずかしくて聞けなかったこと等を分かりやすく教えてもらった」という話を聞き、今後も計画的にフレッシュ職員対象の研修は必要であると感じた。

△若手職員は様々な悩みに対して自分なりに解決したり、先輩に聞いたり、時にはそのままにしたりしながら、日々様々なことにぶつかりながら過ごしている。今後は管理職等に若手を応援し支えていくことの大切さを伝えていきたい。

④わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業公開保育研究会Ⅰ

日 時：令和6年7月24日（水）

10：00～15：00

場 所：男鹿市立北浦保育園

テーマ：「思いやりを通して、心をつないでいく保育とは」

～一人一人が心地よさを感じるための保育士等の関わり～

指導助言：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 今野菜穂子 氏

秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 尾形眞紀子 氏

内 容：3歳児・4歳児・5歳児の混合クラスの保育参観

保育の振り返り

園内研修（グループ協議・グループ発表）

指導助言（保育内容・園内研修）

全体講評



参加者：11名（小学校校長1名）

<参加者の学びや感想>

- ・ 遊びの始まりから終わりまで参観できた。参観者が多くても自由に遊んでいることや、保育士等に思いや考えを伝えている姿から普段の保育を見られたような気がした。保育者との信頼関係が築かれているからこそ安心して過ごさせていると思った。園内研修ではたくさんの発言があった。自分も人前で考えをまとめて話せるように励んでいかなければいけないと思った。
- ・ 「ねらい」を基にしながら子どもたちがどんな場面で心地よさを感じたのか、保育者の関わりはどうだったのかを全体で考えることで答えが明確になり、とても分かりやすい協議であった。

○グループ協議時の「自分自身の保育を振り返るきっかけになった」「園内研修では、もっと自分自身のこととして捉え、積極的に参加しなければいけない」という話から公開保育を通して学ぶことが多かったと感じた。また、今回の内容を園に持ち帰り、職員全体で再度学び合ったことが市全体の質の向上につながったと思う。

△次年度からは、これまでの8園から6園と園数は減少するが、公開保育から学ぶことは多いため、今後も計画的に公開保育を継続的に実施していく必要がある。

⑤わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業公開保育研究会Ⅱ

日 時：令和6年11月14日（木）

10：00～15：00

場 所：午前：秋田キリスト教学園 いづみ幼稚園

午後：オレンジハウス

テーマ：好きな遊びを見つけ、「遊び込める」子どもを目指して

～遊び込める環境の構成と保育者の援助を考える～

講 評：男鹿市教育・保育アドバイザー 泉文子

内 容：保育参観（3歳児・4歳児・5歳児）

経営説明

保育の振り返り

園内研修（グループ協議・グループ発表）

全体講評



参加者：13名（小学校教諭2名）

<参加者の学びや感想>

- ・子どもたちの入学前の様子を見ることや、どんなことに重点を置いて教育を行っているのかを学ぶことができた。また、職場での情報共有を行い、より子どもたちに合った教育活動を行なうことができると思う。
- ・幼稚園の公開保育に参加する機会がなかったので、今回参加して幼稚園の遊びと小学校の学びがどのようにつながっているのかを学ぶことができた。
- ・子どもの「主体性とは…」を考えさせられた。様々な場所や場面で子ども自身が考え、試すという姿があり、そこには保育者の禁止や制止の言葉はなく、のびのびと生活していると思った。自分の保育にも取り入れ自園の園目標である「いきいきと遊ぶ子ども」を育てていきいと思った。

○当日は登園から降園までの参観をした。特に小学校職員からは「こうやって話を聞いているんだ」「自分たちで何でもできるんだ」「協力し合いながら過ごしているんだね」等の話があり、幼児教育と学校教育との違いを相互に理解し合う貴重な時間となった。

○話し合いを通して、幼児教育は環境を通して行う教育であることや、知識や技能を一方的に教えられて身につく時期ではないということ、また、園では小学校以降の子どもの育ちを見据えたうえで、育みたい資質や能力を育んでいくこと等が大事であることを幼保小の職員同士が理解したのではないかと感じた。

△市内唯一の私立幼稚園であるが、これまで築き上げてきた関係性を大事にし、今後も連携を密にしながら男鹿市全体の保育の質の向上に向けて共に取り組んでいきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①「男鹿市就学前・小学校合同研修」

日 時：令和6年7月26日（金）

9：30～16：00

場 所：保育参観

5歳児保育提供園：男鹿市立脇本保育園

講話・協議

男鹿市保健福祉センター

テーマ：「円滑な幼保小の接続～架け橋プログラムの必要性について～」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石郁子 氏

内 容：保育参観・講話・保育の振り返り・グループ協議・発表・全体講評

参加者：29名

＜参加者の学びや感想＞

・園児の保育参観は初めてであった。協議や講話から5歳児の育ちを小学校へつなげていくために何が必要なのかを学んだ。今回の学びから自分自身の指導を振り返り反省すべき点が多くあることに気づかされた。10の姿を意識した指導をしていきたい。

・保育参観を通して自立心や思考力等の芽生えが感じられた。その背景には興味や活動が広がる豊かな環境、保育士の見取りや声掛け、子ども同士をつなぐ支援等があり大変参考になった。講話やグループ協議を通して初めて知ったことや再確認させられたことがたくさんあり、充実した研修になった。育ちと学びを支える円滑な幼保小の接続の意義について本校でも共有していく。

・参観では子どもたちの元気いっぱいながら、落ち着いた様子、楽しそうに自分たちで遊び



を選んでいきいきと遊ぶ様子が印象的でした。先生の指示は殆どなく、子どもたちが自分たちで決めて進んでいく姿に5歳児はこんな力があるんだと驚きました。学校ではもっと子供の「こうしたい」を大事にしたいと感じました。また、架け橋プログラムの重要性、円滑な幼保小の接続のために、今日のような参観や研修会がもっと充実し、それぞれが育てたい子どもの姿を共有することが大事だと実感しました。

- ・担任の振り返りを聞き協議もした。小学校の視点からすると保育園では「〇〇だ」ということが新しい発見となった。発達段階の違いはあるが連続性を意識し、保育園での経験を頭に入れて今後1年生を迎えたい。
- ・小学校と保育園が連携し、円滑なつながりを持つことで子どもたちがより一層にたくましく生きていけると感じた。保育園の先生方が子どもたちの自主性を尊重し遊びを大切にしていた保育をしていることが分かった。小1プログラムをできるだけ少なくしようと尽力し、協力しようと思った。

【男鹿市教育委員会指導主事 佐藤智子 氏より】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせた際、一人一人の丁寧な実態把握、学びの芽を育むための場づくりの工夫、教室環境の充実、子どもの思いを大切にした温かな関わり等により、様々な力が十分に育まれています。

一方、10の姿について本市の学校での近年の児童生徒の様子を振り返ってみると、課題となっている点も見えてきます。課題については、学区の幼保小中で共通理解をした上で、それぞれの発達段階に応じた適切な経験や支援を意図的に取り入れていく必要があると思います。



○架け橋プログラムの必要性については知っていたが、なぜ必要なのか、どのように考えていけばよいのか等よく分からないという参加者が殆どであったが、今回の保育参観や講話、グループ協議等により理解を深めることができた。

△今年度は6校であるが、次年度からは4校になる。研修では、さらに協議が充実するように学区内での話し合いを深めていくことが大事である。そのため次年度からは各園や各小学校からより多くの職員が参加できるように年度初めから様々な場面を通して参加を呼び掛けて幼保小の連携を盛り上げていく。

△幼児期の子どもの育ちや学びを小学校へ円滑につなぐことができるように、関係するすべての職員が参加できるよう開催時期や内容等を工夫していく必要がある。また、幼保小全体で円滑な接続に向って考えていく機会を意図的に作っていく必要がある。

②就学前施設と各小学校との連携

ア：男鹿市立船川第一小学校

- 5月30日（木） 第1回保小連携協議会：午後（1年生授業参観・協議）
- 9月6日（金） 小学校指導主事要請訪問：午前（1年生授業参観）
- 9月27日（金） 特別支援学級実践研修会：午前（1年生授業参観）
- 2月4日（火） 体験入学：午後（1年生との交流会）
- 2月27日（木） 幼保小連絡協議会：午後（協議）

イ：男鹿市立脇本第一小学校

- 4月5日（金） 入学式・授業参観
- 8月30日（金） 第1回幼保小連絡協議会
（1年生授業参観・協議）
- 2月7日（金） 体験入学・保護者説明会
- 2月25日（火） 第2回幼保小連絡協議会



ウ：男鹿市立船越小学校

- 4月5日（金） 入学式・授業参観：午前
- 6月3日（月） 幼保小連絡協議会：午後（1年生授業参観・協議）
- 6月26日（水） 指導主事要請訪問：1日（保育参観・園内研修）
- 9月30日（月） 幼保小情報交換：午後（情報交換）

2月 3日（月） 体験入学：午後（5年生との交流会・協議）

2月 7日（金） 幼保小連絡協議会：午後（協議）

エ：男鹿市立北陽小学校

6月20日（木） 幼保小連絡協議会：午後

7月12日（金） 1年生授業参観

7月19日（金） 園児との交流会（夏祭り）

7月24日（水） 保育園指導主事要請訪問

8月28日（水） 保育参観

12月18日（水） 授業参観

2月19日（水） 授業参観



オ：男鹿市立払戸小学校

6月 7日（金） 第1回幼保小連絡協議会：午後（協議）

7月 3日（水） みんなの登校日：午前

11月 5日（火） 1年生校内研究授業：午前

2月 3日（月） これまでの連携の振り返り



カ：男鹿市立美里小学校

5月23日（木） 幼保小連絡協議会：午後

11月 8日（金） 新1年生体験入学：午後

2月26日（水） 第2回幼保小連絡協議会：午後

③相互職場体験（1日保育士・1日教諭体験）

ア：男鹿市立船川第一小学校と認定こども園男鹿市立船川保育園

7月19日（金） 1日小学校教諭体験：1日（1年生授業及び生活支援・協議）

8月 8日（木） 1日保育士体験：1日（5歳児保育・園内研修・協議）

イ：男鹿市立船越小学校と男鹿市立船越小学校

7月16日（火） 1日小学校教諭体験：1日（1年生授業及び生活支援・協議）

8月 5日（月） 1日保育士体験：1日（5歳児の保育・園内研修・協議）

ウ：男鹿市立払戸小学校と男鹿市立若美南保育園

8月2日（金） 1日保育士体験：1日（5歳児の保育・園内研修・協議）

④研修会等をまとめた広報誌の発行

- ・ 名 称：男鹿市幼保小連携通信「ぶらんこ」
- ・ 配布先：各小学校（6校）、幼稚園（1園）、保育園（7園）、教育委員会（2部）

（5）「県との連携体制の充実」

県と連携しながら就学前施設や保育士等の課題解決に向けた継続的指導や支援

・ 県主催研修会への参加

- 4月26日（金） 園長等運営管理協議会Ⅰ
- 5月17日（金） 教頭主任等研修Ⅰ
- 6月18日（火） 幼稚園・保育園・認定こども園等新採用者研修Ⅲ
- 7月 2日（火） 保育実践力習得研修Ⅰ
- 7月 9日（火） 園内研修担当者研修Ⅰ
- 7月19日（金） 幼稚園・保育所・認定こども園等新規採用者研修Ⅳ
- 8月29日（木） 園長等運営管理協議会Ⅱ
- 9月 6日（金） 中堅教諭等資質向上研修Ⅴ
- 9月12日（木） 幼稚園・保育所・認定こども園等5年経験者研修Ⅱ
- 9月26日（木） 幼稚園・保育所・認定こども園等新規採用者研修Ⅴ
- 10月 3日（木） 保育実践力習得研修Ⅱ
- 10月22日（火） 園内研修担当者研修Ⅱ
- 11月 1日（金） 教頭主任等研修Ⅱ

- 4月10日（水） 「幼保小の架け橋プログラム」の理解促進と取組実践に関わる説明会」
- 4月23日（火） 架け橋プログラム研修会Ⅰ
- 6月13日（木） 就学前教育理解推進研究協議会Ⅰ
- 6月21日（金） 架け橋プログラム研修会Ⅱ
- 11月22日（金） 就学前教育推進協議会
- 1月30日（木） 就学前教育理解推進研究協議会Ⅱ

・ 教育・保育アドバイザー連絡協議会

- 4月23日（火） 第1回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 6月25日（火） 第2回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 8月23日（金） 第3回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 10月24日（木） 第4回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 1月23日（木） 第5回教育・保育アドバイザー連絡協議会

- 10月15日（火） 市に学ぶ研修（大仙市：大曲中央こども園）
- 10月23日（水） 市に学ぶ研修（男鹿市：若美南保育園）
- 11月21日（木） 市に学ぶ研修（潟上市：追分保育園）

・指導主事要請訪問や認定こども園訪問に同行し指導や助言方法観察

- 6月26日（水） 指導主事要請訪問（男鹿市立船越保育園）
- 7月18日（木） 指導主事要請訪問（男鹿市立玉ノ池保育園）
- 7月24日（水） 指導主事要請訪問（男鹿市立北浦保育園）
- 8月22日（木） 指導主事要請訪問（男鹿市立脇本保育園）
- 8月28日（水） 指導主事要請訪問（男鹿市立若美南保育園）
- 9月10日（火） 認定こども園訪問（認定こども園男鹿市立船川保育園）

○県主催研修会では、今現在必要とされている教育内容を学ぶことができるため、園訪問時等で保育者や管理職等へのアドバイスに役立っている。また、アドバイザー連絡協議会では、各市の取組状況や情報交換から参考になることが多く自市の事業内容に生かしている。

○指導主事要請訪問同行等では、保育の見方や捉え方、また、保育者に考えてもらいたいことについて、どのように伝えれば伝わるのか等学ぶことができた。

△今後も、保育の基本を学ぶために、県主催の研修会には出来るだけ多く参加し、学び続けていかなければいけない。また、教育・保育アドバイザー連絡協議会是他市の内容が参考になることが多いため今後も継続してほしい。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和6年）の成果と課題

- 園訪問では、主体性を大切にした保育の展開や、保育の振り返り時にSOAPに沿った保育の振り返りになってきていることから保育者一人一人や園全体の成長が感じられる。また、保育者が自分の保育についての考え方や思いを話せるようになってきていることから個人の保育の質の向上が園全体の保育の質の向上につながっている。
- 「架け橋期のカリキュラムの作成」について、関係部局間である子育て健康課と市教育委員会が互いに共通理解を図りながら進める方向になったことは大きな進歩である。また、「架け橋プログラム市町村訪問」を通して、架け橋プログラム作成の必要性や意義、それをどのように進めていけばよいのか等について、相談や助言等をいただいたことは今後の進め方や捉え方の参考になった。
- 就学前教育と小学校教育との円滑な接続に関することは、関係部局間で思いの違いがあるため、誰のための何のためのカリキュラムなのか等、事前の話し合いが十分に行われなければいけないと感じた。作成することが最終目的ではなく、まずは幼保小の違いを互いに理解し合うことから始めなければいけないと感じる。そのため幼保小の職員がたくさん話し合い、その中で幼保で育ちつつある芽を小学校でどう育てていくのか、どうつなげていけばよいのかを話し合った結果が文章として記されて架け橋カリキュラムになっていくことの相互理解が必要である。